

# 第5章 目標実現に向けた事業内容と業績評価指標

## 1. 目標実現に向けた事業内容

ここでは、第4章で示した6つの目標の実現に向け、実施すべき事業を定めます。

表 取組み方針と事業内容

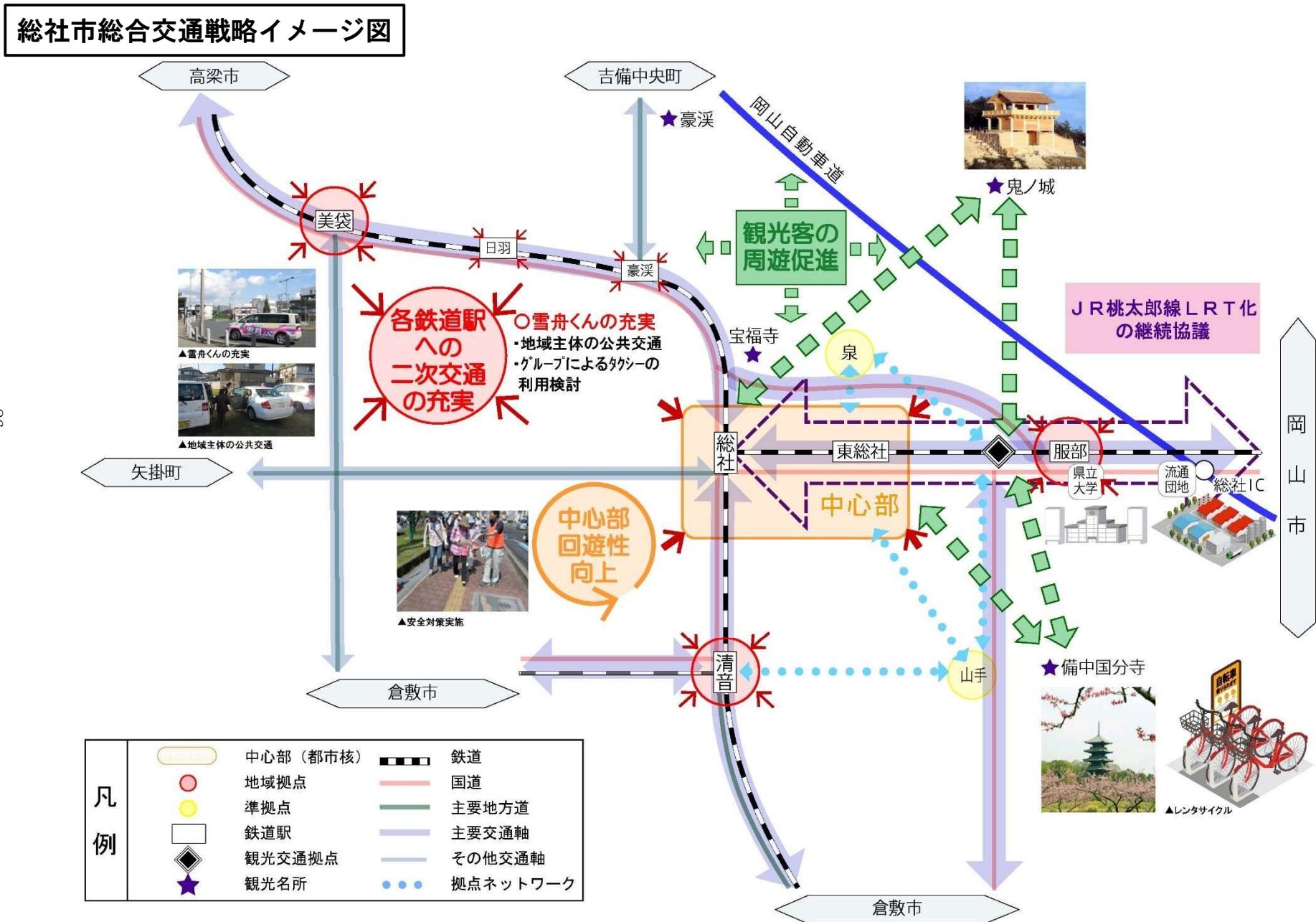
目標	対象	現状・問題点	上位・関連計画における事業概要	事業内容
将来にわたり、安心快適に移動できる！	雪舟くん	<ul style="list-style-type: none"> <li>「登録手続きが煩わしい」との声あり</li> <li>運行が平日に限定されている</li> <li>運行時間帯が8時～16時に限定されている</li> <li>利用者の多い曜日や時間帯に偏りがある</li> <li>エリア間移動に関するニーズが不明</li> <li>雪舟くんの実際の詳細な運行データが不足</li> <li>市内のみの運行である</li> <li>乗降客数が千人を越える清音駅、服部駅において定時路線バスの乗り入れがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予約受付システムの更新</li> <li>運行台数、エリアの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録手続きの簡素化</li> <li>予約受付システムの改善</li> <li>運行エリア、台数、曜日、時間帯等を含めた運行システムの改善</li> <li>比較的利用の少ない曜日や時間帯を情報発信し、利用の平準化(混雑緩和)を図る</li> <li>利用率の低い年齢層やエリアにターゲットを絞った利用促進策の推進</li> <li>エリア間移動に関する市民ニーズの把握</li> <li>一定期間(1週間ないし1ヶ月)を対象に、雪舟くんにプローブ機器を搭載</li> <li>生活圏域が市外である地域を中心に市域を越えた公共交通ネットワークの協議・推進</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>定時定路線の運行本数はいずれも1日5本以下と非常に少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>路線バスの増発について関係機関への要望を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の定時型路線サービスの確保・維持</li> <li>人が集まる公民館や分館などを停留所とすることの検討</li> </ul>
	路線バス	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市施設が集中する中心部において、公共交通の利便性が低く周遊性が悪い</li> <li>市街化区域において駅・バス停徒歩圏外の地域が存在</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内中心部へのアクセス性向上と中心部の自転車、歩行者の安全・安心な空間の整備</li> </ul>
市内外への移動を充実・強化する！	鉄道	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡山市とのつながりが強い中、JR伯備線及びJR桃太郎線の運行本数は、日中で1～2本/時程度と少ない</li> <li>過度に自動車利用に依存した暮らしから、脱炭素社会の実現を図る必要がある</li> <li>路線バスが脆弱なため駅へのアクセス性が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>井原鉄道井原線において関係機関と連携しマイレール意識を高める取組みを推進</li> <li>JR桃太郎線のLRT化協議の再開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR西日本に対する、JR伯備線及びJR桃太郎線の運行本数増加、速度向上の要請</li> <li>井原線の利用促進策について、井原鉄道や関係自治体とともに発案し実行する</li> <li>周辺道路や踏切の改良、軌道化等、利用者だけでなく、周辺住民にとっての交通環境向上について検討する</li> <li>JR桃太郎線のLRT化の継続協議及びLRT化による新駅設置</li> </ul>

目標	対象	現状・問題点	上位・関連計画における事業概要	事業内容
誰もが外しやすい環境を整備する!	駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉄道駅におけるバリアフリー化、駐車場、駐輪場の充実があまり図られていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラットホームや階段など駅施設の安全性向上とバリアフリー化を推進</li> <li>● JR 美袋駅:バリアフリー化などの機能向上を推進</li> <li>● JR 清音駅:東口駅前広場におけるサイクル＆ライドに対応する交通結節機能の充実を図る</li> <li>● JR 服部駅:駐輪・駐車場の確保と駅前広場の整備を図るなど、パーク＆ライド、サイクル＆ライドに対応する交通結節機能の充実を図る</li> <li>● JR 総社駅:パーク＆ライド、サイクル＆ライドの普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 拠点エリア各駅に、バリアフリー化や駅前広場、パーク＆ライド施設、サイクル＆ライド施設やアクセス道路整備の取組みを推進</li> </ul>
	バス停	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東総社駅前や美袋駅前のバス停においても上屋やベンチが設置されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バス停における施設の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上屋やベンチの設置などバス停の利便性の向上を推進</li> </ul>
	車両	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共交通車両においても、脱炭素社会の実現に貢献する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉・環境に配慮したバス車両の導入について、関係機関に働きかけを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉄道・バスともに車両のバリアフリー化を推進</li> <li>● バス車両については環境に配慮した車両の導入を推進</li> </ul>
	情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 路線バス、雪舟くんの市民の利用率は、いずれも 1%未満である</li> <li>● 「吉備路自転車道」が指定されており、沿線には史跡・古墳が存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 路線ダイヤや乗継、運賃等について駅での情報案内を行い、分かりやすさの向上を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 駅における案内情報の分かりやすさ向上</li> <li>● 公共交通の利用促進パンフレット作成等 PR の推進</li> <li>● モバイル端末等を活用した情報提供</li> </ul>
観光客が楽しんで観光地を周遊することができる!	福祉	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活支援サービス提供体制の整備、いきいきチケット事業など高齢者が安心して生活するための取組みを推進する</li> <li>● 障がい者の社会参加の機会確保のため、交通手段サービスに関する制度の周知を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉交通の充実</li> <li>● 外出に係る生活支援サービスの制度との連携や利用環境の向上</li> <li>● 雪舟くんの利便性向上やいきいきチケット事業の制度周知により、積極的な利用を促進</li> </ul>
	観光客用移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共交通でのアクセスが困難な地域が多数存在</li> <li>● 特急やくもの総社駅停車本数は 1 日 3 便と少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間と連携した弾力的な二次交通の整備・運用(タクシー、レンタカー、レンタサイクル等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 商業施設やイベント等との連携</li> <li>● 民間レンタサイクル施設の増設や楽しんで周遊できるレンタサイクルを導入するための情報提供</li> <li>● 観光ルートづくりや多言語によるパンフレット、案内看板の作成</li> </ul>

目標	対象	現状・問題点	上位・関連計画における事業概要	事業内容
みんなが主体となって考え、改善する！	鉄道・バス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢化社会の進展に伴い、運転免許証返納の促進を図る必要がある</li> <li>● 市民の移動手段の大半は自家用車である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「第3次総社市総合計画」では「基本目標4 集う人にやさしいまちを創る」の施策として「地域課題を解決し、独自性ある地域を創る」を掲げている</li> <li>● 「地域公共交通の活性化に関する法律」第四条第3項に「市町村は、交通事業者等その他の関係者と協力し、相互に密接な連携を図りつつ主体的に地域公共交通の活性化及び再生に取り組むよう努めなければならない」と謳われている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 雪舟くん、路線バス利用者への市民ニーズの把握</li> <li>● 有識者、市民代表、交通事業者、関係行政機関、市等からなる「総社市地域公共交通会議」での計画推進のための協議</li> <li>● 雪舟くんの乗り方・使い方の出前講座実施</li> <li>● 運転免許証返納者に対する雪舟くん利用券の交付</li> </ul>
	新たな地域公共交通の創設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域コミュニティタクシーやボランティア運送、グループタクシーなど、地域住民が主体となって運行に係る地域公共交通の導入が全国的に進められている</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域住民が主体となって運行するシステム化、交通事業者との協働により運用できるよう制度設計や補助制度の構築を検討推進</li> </ul>
中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！	歩道・道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 商業施設等と連携した雪舟くん利用者に限り、特典・サービス「雪舟くんのり得！サービスの店」を実施</li> <li>● 東西方向の路線に比べ、南北方向の路線の整備率が低く脆弱である</li> <li>● 高齢化の進展に伴い(電動)車椅子利用者が増加</li> <li>● 環境負荷の低減や健康増進への関心の高まりから、自転車利用者やランナー、ウォーカーが増加</li> <li>● 通学路交通安全プログラムによる合同点検において対策が必要とされた箇所がある</li> <li>● 大規模地震や豪雨災害に伴う災害リスクが高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者や障がい者等の安全に配慮し、歩道等の道路環境や交通安全施設の整備について、関係機関と協力し推進する</li> <li>● 国土交通省では、「ウォーカブルなまちづくり」を推進している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共交通利用者向けの特典・サービスの拡充</li> <li>● 南北方向の路線の整備促進(刑部支線3283号道、東総社駅前泉本線、(仮称)神在秦本線等)</li> <li>● 車椅子、歩行者、自転車が安全・快適に移動できる通行空間の整備・確保</li> <li>● 通学路を中心とした歩道整備((一)総社足守線、(主)上高末総社線等)「歩いて楽しいまちなか空間の創出」につながる施策の実施</li> </ul>
	新技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動運転技術が急速に進展</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 将来的な取組として、公共交通における自動運転の活用や、カーシェアリング、グリーンスローモビリティの検討を推進</li> </ul>

## 2. 事業イメージ

本戦略における事業イメージを下図に示します。



なお、路線バスについては、路線ごとに主たる役割を定め、運行の確保・維持に努めます。

### 総社市における路線バスの役割

位置付け	主たる役割	路線名
広域幹線	高梁市から総社市を経由して岡山市を結ぶ路線であり、並行する鉄道路線ではカバーできない需要(通勤・通学・通院・買い物等)に対応する。	地頭～岡山線
	吉備中央町と総社市とを結ぶ唯一の公共交通機関であり、多様な需要(通勤・通学・通院・買い物等)に対応する。	総社南高北・総社駅～妙仙寺・宮前線
地域内幹線・支線	鉄道が無い総社市西部地域(秦・久代・山田・新本の各地区)と総社市中心部を結ぶ路線であり、通学需要に対応する。	総社～新本線
	鉄道が無い総社市南部地域(山手地区)と倉敷市の総合病院とを結ぶ路線であり、通院需要に対応する。	雪舟くん・倉敷中央病院往復便 (予約型乗合方式)
	特に交通弱者向けに、公共交通空白地域の日常生活に必要な足を確保する。	雪舟くん (デマンド型交通)



出典・総社市 HP

## 目標 1. 将来にわたり、安心快適に移動できる！

事業 対象	雪舟くん											
<b>① 継続的な運行システムの改善</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 雪舟くんは、総社市内各地域を運行し、主要施設や軸となる鉄道路線へのアクセスとして、引き続き重要な役割を果たします。</li> <li>➤ 従来のエリア設定を基本としつつ、共通エリアの見直しや最適なエリア区分への改善を進めます。</li> <li>➤ スマホ予約や迎えの到着予定時刻の見える化、また、目的地への到着予定時刻を指定できるなど利便性向上につながるシステムの導入を検討します。</li> <li>➤ 継続的な運行の実現のため、利用方法や運行エリアなどの説明と市民ニーズ調査により、利用者拡大に努めています。</li> </ul>												
												
実施スケジュール		実施主体(◆:主, ◇:関連)										
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者						
 			◆	◇		◆						
(R2~R3)												
<b>② 運行台数や料金等の見直し</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 予約お断りゼロを目指すため、運行台数、運行時間帯、委託料、さらに将来にわたり持続可能な利用料金について、市民の声を踏まえ関係事業所等と見直しの協議を進めます。</li> </ul>												
実施スケジュール		実施主体(◆:主, ◇:関連)										
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者						
 			◆	◇		◆						
(R2~R3)												
<ul style="list-style-type: none"> <li>●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)</li> <li>●実施：施策実施 (➡)</li> <li>●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)</li> </ul>												

### 評価指標 1-1-1 登録者数

指標値	平成 30 年度	18,767 人
	令和 6 年度(現況)	22,060 人
	令和 11 年度(目標)	26,000 人
データ取得方法		市にて把握・算出
評価時期		毎年

### 評価指標 1-1-2 利用者数

指標値	平成 30 年度	214 人/日
	令和 6 年度(現況)	178 人/日 (令和 6 年度)
	令和 11 年度(目標)	250 人/日 (令和 11 年度)
データ取得方法		市にて把握・算出
評価時期		毎年

### 評価指標 1-1-3 予約お断り件数

指標値	平成 30 年度	約 15 件/日
	令和 6 年度(現況)	約 5 件/日
	令和 11 年度(目標)	0 件/日
データ取得方法		市にて把握・算出
評価時期		毎年

**③ 運行体系の見直し**

- 各鉄道駅への二次交通の充実及び中心部における回遊性向上を図るため、路線数や経路、予約型、国県補助など現行の路線の統廃合を含め、制度設計のための検討協議を進め、運行体系の見直しを図ります。



実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
→	→	→	◆	◇	◇	◆

●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (→)

●実施：施策実施 (→)

●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (→)

**④ 既存交通手段の継続運行**

- 市内中心部と西部とを結ぶ定時定路線バス路線である中鉄バス総社～新本線については、朝夕の通学手段確保のため、引き続き継続運行とします。
- 乗車停留所を限定した「雪舟くん・倉敷中央病院往復便」については、総社市内から倉敷中央病院への通院手段確保のため、引き続き継続運行とします。
- その他、タクシー、福祉有償運送、スクールバス、総社市版ライドシェアについても、継続的に運行します。

実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
.....	→	→	◆	◇	◇	◆

●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (→)

●実施：施策実施 (→)

●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (→)

【参考】地域内幹線・支線の路線一覧

系統名称	起点	経由地	終点	許可区分	運行形態	実施主体	補助事業の活用
総社～新本線	総社駅	あおい ハイツ東	新本	4条乗合	路線定期運行	中鉄バス(株)	単市補助
雪舟くん・ 倉敷中央 病院往復便	総社駅	総社 市役所等	倉敷 中央病院	4条乗合	路線不定期運行	総社市 (運行は委託)	なし
雪舟くん		市内全域		4条乗合	区域運行	総社市 (運行は委託)	なし

評価指標 1-2-1 市内路線バスに係る市の財政負担額（地頭～岡山線含む）

指標値	令和 6 年度(現況)	800 万円/年
	令和 11 年度(目標)	800 万円/年
データ取得方法		一般会計決算
評価時期		毎年

評価指標 1-2-2 市内路線バスの収支差（地頭～岡山線含む）

指標値	令和 6 年度(現況)	▲3,401 万円/年
	令和 11 年度(目標)	▲3,401 万円/年
データ取得方法		事業者報告書、決算報告書等の資料
評価時期		毎年

## 目標 2. 市内外への移動を充実・強化する！

事業 対象	鉄道											
<b>① 鉄道事業者に対する利便性向上の要請</b>												
<p>➢ 伯備線や桃太郎線（吉備線）を運行する西日本旅客鉄道（JR西日本），井原線を運行する井原鉄道との連携により，総社市から広域への移動手段の確保・維持を図るとともに，鉄道事業者へのダイヤ改正，利用ニーズにあった車両運用，加減速性能の高い車両の導入，利便性の向上に資する施設整備等を継続的に働きかけます。</p>												
<b>実施スケジュール</b>		<b>実施主体(◆:主, ◇:関連)</b>										
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者						
----- (以前から実施)	■■■■■ →	→	◆	◇		◆						
<p>●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (→)</p> <p>●実施：施策実施 (■■■■■ →)</p> <p>●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (→)</p>												

評価指標 2-1-1 利用者数	
指標値	平成 30 年度 JR 西日本（総社市内 7 駅）：14,926 人/日
	令和 6 年(現況) JR 西日本（総社市内 7 駅）：14,266 人/日
	令和 11 年度(目標) JR 西日本（総社市内 7 駅）：15,000 人/日
データ取得方法	市にて算出（鉄道事業者から収集）
評価時期	毎年

## ② JR桃太郎線のLRT化に向けた継続協議

- JR桃太郎線LRT化については、隣接する岡山市や岡山県、JR西日本と継続的に協議を行います。

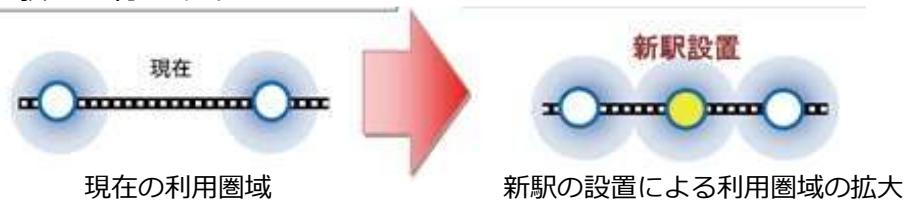


実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和2~6年)	後期 (令和7~11年)	将来 (令和12年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
			◆	◇		◆

## ③ JR桃太郎線LRT化による新駅設置

- JR桃太郎線に新駅を設置し、駅の利用圏域を拡大することで、鉄道の利便性向上を図ります。

### ■駅への行きやすさ



実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和2~6年)	後期 (令和7~11年)	将来 (令和12年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
			◆	◇		◆

●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)

●実施：施策実施 (➡)

●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)

#### ④ 市外と結ぶ一般路線バスの継続運行

- 「地頭～岡山線」は、総社市にとって、隣接する岡山市や高梁市への通勤・通学や高齢者の通院や買い物等、多様な目的を有しています。引き続き周辺自治体及び事業者と協力し、継続運行とします。
- 「総社南高北・総社駅～妙仙寺・宮前線」は、隣接する吉備中央町と総社市とを結ぶ唯一の交通手段です。通勤・通学や高齢者の通院や買い物等、多様な目的を有しています。引き続き周辺自治体及び事業者と協力し、継続運行とします。

実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2～6 年)	後期 (令和 7～11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
（R6～）	（R7～）	（R12～）	◆	◇		◆

●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)

●実施：施策実施 (➡)

●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)

#### 【参考】広域幹線の路線一覧

系統名称	起点	経由地	終点	許可 区分	運行形態	実施主体	補助事業 の活用
地頭～岡山線	地頭	古町	岡山	4条乗合	路線 定期運行	備北バス(株)	幹線補助
総社南高北・総社駅 ～妙仙寺・宮前線	総社南高北	妙仙寺	宮前	4条乗合	路線 定期運行	中鉄バス(株)	なし

#### 評価指標 2-2-1 市内路線バスの利用者数（総社～新本線含む）

指標値	令和 6 年(現況)	84 人/日
	令和 11 年度(目標)	100 人/日
データ取得方法		バス事業者保有の乗降データ
評価時期		毎年

### 目標3. 誰もが外だしやすい環境を整備する！

事業 対象	駅
<b>① バリアフリー化の推進</b>	
▶ 駅等の公共交通施設が、誰にとっても利用しやすいものとなるようバリアフリー化を推進します。	
	
実施スケジュール	
前期 (令和2~6年)	後期 (令和7~11年)
将来 (令和12年以降)	
実施主体(◆:主, ◇:関連)	
行政	市民 地域
企業	交通 事業者
<b>② 駅前広場等の整備</b>	
▶ 鉄道駅において、駅前広場の再整備や、自転車、歩行者等も安全に利用できるアクセス道路の整備等により、乗り継ぎしやすくアクセス性の高い駅を目指します。	
	
実施スケジュール	
前期 (令和2~6年)	後期 (令和7~11年)
将来 (令和12年以降)	
実施主体(◆:主, ◇:関連)	
行政	市民 地域
企業	交通 事業者
●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)	
●実施：施策実施 (➡)	
●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)	

### ③ パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備

- 鉄道駅において、パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備等により、より利便性の高い駅を目指します。



実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
		➡	◆	◇		◆

### ④ 公共交通情報の充実

- 施設案内表示、公共交通運行ダイヤ、乗り場情報の充実やリアルタイム運行情報・所要時間の見える化など、誰もが目的地に出かけやすい環境整備を図ります。あわせて、総社を訪れる方々のため、観光や沿線上の PR マップなどの充実を図ります。



出典：(株) 未来シェアより提供

実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
➡	➡	➡	◆	◇		◆

- 検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)
- 実施：施策実施 (➡)
- 継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)

### 評価指標 3-1-1 鉄道利用満足度

指標値	平成 30 年度	29.8%（平成 26 年第 2 次総社市総合計画策定のためのアンケート調査結果鉄道・バス満足度）
	令和 6 年度(現況)	33.3%（令和 6 年第 3 次総社市総合計画策定のための市民満足度調査公共交通の利便性の向上に関する満足度）
	令和 11 年度(目標)	50%
データ取得方法	市にて把握・算出	
評価時期	5 年毎	

## 目標4. 観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！

事業対象	観光客用移動手段											
① 観光タクシー等の促進												
<p>➤ 鬼ノ城や備中国分寺、宝福寺などの観光文化施設にインバウンドを含め県内外から多くの観光客に訪れてもらえるよう、JR「駅から観タクン」等のタクシー事業者への情報提供等を行い、関係機関と協働し実施します。</p>												
												
実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)									
前期 (令和2~6年)	後期 (令和7~11年)	将来 (令和12年以降)	行政	市民地域	企業	交通事業者						
  	(R2~R3)		◆		◇	◆						
② レンタサイクルの促進												
<p>➤ 吉備路自転車道の沿線に点在する史跡や古墳、自然、日本遺産に指定された史跡などを楽しんで周遊することができるよう、レンタサイクル事業者等の情報提供を図ります。</p>												
												
実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)									
前期 (令和2~6年)	後期 (令和7~11年)	将来 (令和12年以降)	行政	市民地域	企業	交通事業者						
  	(R2~R3)		◆		◆	◇						
<ul style="list-style-type: none"> <li>●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (  )</li> <li>●実施：施策実施 (  )</li> <li>●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (  )</li> </ul>												

## 評価指標 4-1-1 観光タクシー運行件数

指標値	平成 30 年度	129 件/年 (総社市観光協会企画分は令和元年度の件数を計上)
	令和 6 年度(現況)	11 件/年
	令和 11 年度(目標)	15 件/年
データ取得方法		事業者よりデータ取得
評価時期		毎年

## 目標5. みんなが主体となって考え、改善する！

事業 対象	交通環境改善													
① 総社市地域公共交通会議の充実														
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の着実な実施、事業進捗の管理や適切な見直しを年1回以上行うために、市民や交通事業者等で施策内容を協議する地域公共交通会議を継続的に開催します。</li> </ul>														
														
実施スケジュール				実施主体(◆:主, ◇:関連)										
前期 (令和2~6年)	後期 (令和7~11年)	将来 (令和12年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者								
			◆	◇	◇	◆								
実施スケジュール				実施主体(◆:主, ◇:関連)										
前期 (令和2~6年)	後期 (令和7~11年)	将来 (令和12年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者								
			◆	◇	◇	◆								
<ul style="list-style-type: none"> <li>●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)</li> <li>●実施：施策実施 (➡)</li> <li>●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)</li> </ul>														

### ③ 公共交通利用促進のためのイベント開催

- 市内の各種施設やイベントと連携して、公共交通の利用促進イベントを実施します。対象者は、高齢者のほか、小中学生以下の児童・生徒とします。具体的には、予約が必要な雪舟くんの乗り方・使い方について、出前講座を実施します。

実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
			◆	◆	◆	◆

### ④ 運転免許証返納支援

- 運転免許証を返納した方や運転免許証の返納を考えている方等に対して、運転免許証返納者が利用できる割引制度を実施します。
- 具体的には、運転免許証返納者に対し、雪舟くん利用券の交付を継続します。

実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
			◆	◆	◇	◆

### ⑤ 運転手確保のための行政による広報

- 将来的にバスやタクシーなどの運転手が不足する事態に備え、交通事業者と密に連絡をとりつつ、市民に対して運転手不足の現状を伝え、運転手確保につながるように、ホームページなどで公表します。

実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
			◆			◆

●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)

●実施：施策実施 (➡)

●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)

### 評価指標 5-1-1 総社市地域公共交通会議の開催回数

指標値	平成 30 年度	年 1 回
	令和 6 年度(現況)	年 1 回
	令和 11 年度(目標)	年 4 回 (計画期間中)
データ取得方法		市にて開催回数を把握
評価時期		毎年

### 評価指標 5-1-2 雪舟くんの出前講座開催回数

指標値	令和 6 年度(現況)	年 2 回
	令和 11 年度(目標)	年 2 回
データ取得方法		市にて把握・算出
評価時期		毎年

### 評価指標 5-1-3 運転免許証返納率

指標値	令和 6 年度(現況)	1. 90%
	令和 11 年度(目標)	2. 00%
データ取得方法		岡山県免許センターから資料を提供
評価時期		毎年

## ⑥ 地域主体の公共交通の環境整備

- 買い物支援等地域が主体となって運行する公共交通の創設について要望のある地域に対して、制度や届け出等手続き方法を指導するとともに、PRを進め、他地域でも導入しやすい環境を整備します。



実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
➡	➡	➡	◆	◆	◇	◆

## ⑦ グループでのタクシー利用環境の整備検討

- 市民が利用しやすいタクシーを目指すため、地域住民の要望に応じ、タクシーの共同利用ができる環境整備についての検討を行います。

実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
➡	➡	➡	◆	◆	◇	◆

●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)

●実施：施策実施 (➡)

●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)

## 評価指標 5-2-1 新規創設数

指標値	平成 30 年度	新規
	令和 6 年度(現況)	5 団体 (うち総社市版ライドシェア登録 3 団体)
	令和 11 年度(目標)	10 団体
データ取得方法		市にて把握・算出
評価時期		毎年

## 目標 6. 中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！

事業 対象	歩道、道路													
<b>① 商業施設等との連携</b>														
<p>➤ 魅力的なまちづくりと公共交通の利用を連動させるため、商業施設等と連携し、公共交通利用者向けの特典・サービスを拡充していきます。</p>														
実施スケジュール		実施主体(◆:主, ◇:関連)												
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者								
			◆		◇	◆								
<b>② 南北方向整備路線の整備</b>														
<p>➤ 市の東西に国道 180 号総社・一宮バイパスが整備される中、道路ネットワークの構築による都市内移動の円滑化や中心市街地の渋滞緩和を図るため、南北方向整備路線の整備を進めます。</p> <p>※南北方向の整備予定路線《東総社駅前泉本線、(仮称) 神在秦本線等》</p>														
実施スケジュール		実施主体(◆:主, ◇:関連)												
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者								
			◆											
<b>③ 歩行・自転車空間の整備</b>														
<p>➤ 交通弱者である子ども、高齢者、障がいの方にとつても、安全・安心な交通環境の確保のため、歩行・自転車空間の整備を進めます。</p>														
実施スケジュール		実施主体(◆:主, ◇:関連)												
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者								
			◆	◇										
<p>●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)</p> <p>●実施：施策実施 (➡)</p> <p>●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)</p>														

#### ④ 歩いて楽しいまちなか空間の創出

- 国土交通省が掲げる「ウォーカブルなまちづくり」の理念を踏まえ、都市中心部や生活拠点において、歩行者が「歩いて楽しい」と感じられる空間の創出を目指します。具体的には、歩行者ネットワークの強化、滞留・交流を促す広場や緑地の配置、バリアフリー化の推進などについて、関係機関との協議を進めていきます。

実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
			➡	◆	◇	◆

#### ⑤ 自動運転の検討推進

- 自動運転技術の本格的な実用化に向け、公共交通への導入やカーシェアリング、グリーンスローモビリティといった交通施策について、関係機関と連携し検討を進めます。



実施スケジュール			実施主体(◆:主, ◇:関連)			
前期 (令和 2~6 年)	後期 (令和 7~11 年)	将来 (令和 12 年以降)	行政	市民 地域	企業	交通 事業者
			➡	◆	◇	◆

●検討・調整：施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (➡)

●実施：施策実施 (➡)

●継続：計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (➡)

### 評価指標 6-1-1 商業施設等との連携

指標値	令和元年度	1企画/年
	令和 6 年度(現況)	1企画/年
	令和 11 年度(目標)	2企画/年
データ取得方法		市にて把握・算出
評価時期	毎年	

### 評価指標 6-1-2 南北方向整備路線の整備率

指標値	平成 30 年度	0%
	令和 6 年度(現況)	59% (内訳は下記のとおり) ・刑部三須線 : 100% (事業化していない部分は事業化に向けて県と協議中) ・刑部支線 3283 号道 : 57% ・東総社駅前泉本線 : 25% ・(仮称) 神在秦本線 : 54%
	令和 11 年度(目標)	100%
データ取得方法		市にて把握・算出
評価時期	毎年	

### 評価指標 6-1-3 市民の外出率

指標値	平成 27 年度	平日 78.4% 休日 60.6%
	令和 3 年度(現況)	平日 77.4% 休日 51.0% (コロナ禍の数値)
	目標	平日 80.0% 休日 70.0%
データ取得方法		全国都市交通特性調査
評価時期	5年毎	

### 3. 業績評価指標

本計画において定めた事業の効果を評価し、必要に応じて事業の見直しを行うため、業績評価指標を以下のとおり設定しました。なお、指標の設定に際しては、継続した実施につながる項目を選定しました。

表 業績評価指標・現況値・目標値一覧

目標	事業対象	事業内容	実施スケジュール			実施主体 (◆:主, ◇:関連)				業績評価指標	計画開始時 (平成30年度)	中間見直し時 現況値(令和6年度)	目標値 (令和11年度)
			前期 (H30~R6)	後期 (R7~R11)	将来 (R12以降)	行政	市民地域	企業	交通事業者				
1. 将来にわたり、安心快適に移動できる！	雪舟くん	①継続的な運行システムの改善	→ (R2~R3)			◆	◇		◆	登録者数	18,767人	22,060人	26,000人
		②運行台数や料金等の見直し	→ (R2~R3)			◆	◇		◆	利用者数	214人/日	178人/日	250人/日
	その他交通手段	④既存交通手段の継続運行	→ (R6~)			◆	◇	◇	◆	予約お断り件数	約15件/日	約5件/日	0件
										市内路線バスに係る市の財政負担額 (地頭～岡山線含む)	—	800万円/年	800万円/年
	鉄道	①鉄道事業者に対する利便性向上の要請	→ (以前から実施)			◆	◇		◆	市内路線バスの収支差 (地頭～岡山線含む)	—	▲3,401万円/年	▲3,401万円/年
		④市外と結ぶ一般路線バスの継続運行	→ (R6~)			◆	◇		◆	利用者数 JR西日本：総社市内 7駅	JR西日本： 14,926人/日	JR西日本： 14,266人/日	JR西日本： 15,000人/日
2. 市内外への移動を充実・強化する！	幹線路線バス	②駅前広場等の整備	→			◆	◇		◆	市内路線バスの利用者数 (総社～新本線含む)	—	84人/日	100人/日
		③パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備	→			◆	◇		◆				
	駅	④公共交通情報の充実	→			◆	◇		◆				
		①バリアフリー化の推進	→			◆	◇		◆				
		⑤公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆				
3. 誰もが外出しやすい環境を整備する！	観光客用移動手段	①公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆				
		②公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆				
4. 観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！	観光客用移動手段	③公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆				
		④公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆				
		⑤公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆				
		⑥公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆				
		⑦公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆				
5. みんなが主体となって考え、改善する！	交通環境改善	①公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇	◆	◆	総社市地域公共交通会議の開催回数	年1回	年1回	年4回 (計画期間中)
		②公共交通機関の利便性向上	→			◆	◆	◆	◆	雪舟くんの出前講座開催回数	—	年2回	年2回
		③公共交通機関の利便性向上	→			◆	◆	◆	◆	運転免許証返納率	—	1.90%	2.00%
		④公共交通機関の利便性向上	→			◆	◆	◆	◆	新規創設数	新規	5団体 (うち総社市版ライドシェア登録3団体)	10団体
6. 中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！	歩道、道路	①公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇		◆	商業施設等との連携	1企画/年	1企画/年	2企画/年
		②公共交通機関の利便性向上	→			◆				南北方向整備路線の整備率	0%	59%	100%
		③公共交通機関の利便性向上	→			◆	◇			市民の外出率	平日：78.4% 休日：60.6% (H27年度)	平日：77.4% 休日：51.0% (R3年度、コロナ禍の数値)	平日：80.0% 休日：70.0%

実施スケジュール ●検討・調整: 施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施 (→)  
 ●実施: 施策実施 (→)  
 ●継続: 計画期間外も検討・調整や施策実施を継続 (■→)